

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立緑が丘小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	66人	算数	66人	理科	66人
第5学年	国語	53人	算数	53人	理科	53人

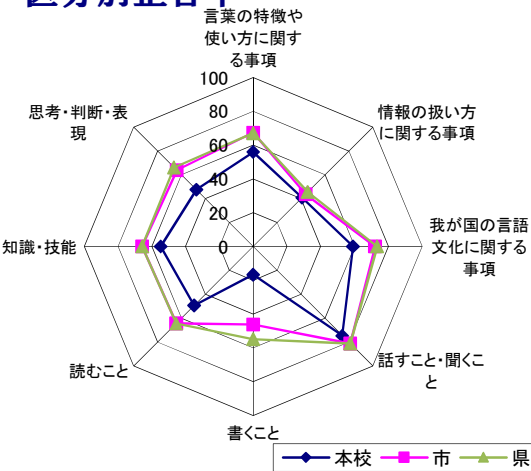
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	55.9	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	40.9	43.8	45.7
	我が国の言語文化にに関する事項	59.1	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	74.6	81.2	81.2
	書くこと	16.7	46.2	54.9
	読むこと	49.4	64.3	64.5
観点	知識・技能	54.8	65.7	65.7
	思考・判断・表現	47.5	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

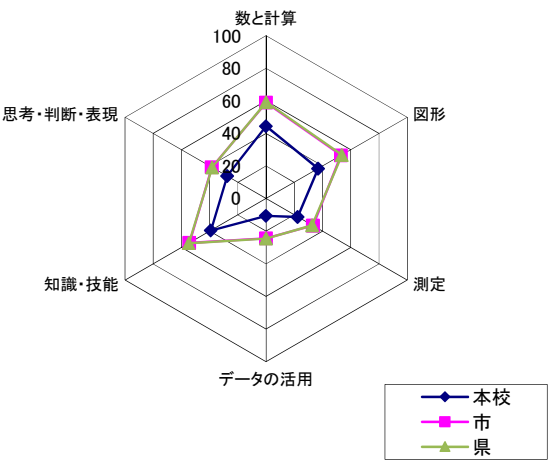
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は55.9%で、市の平均を11.5ポイント下回っている。 ○ローマ字は、正答率も高く定着が見られる。 ●漢字の読み、書き、主語と述語、対義語などに課題が見られた。特に、漢字の読み書きは県や市と比べ、正答率が低かった。	・ミニテストを定期的に行い、習熟を図りながら、文を書く際、習った漢字を使うよう漢字の表を手元に置いて書くようにさせる。 ・分からない言葉が出てきた際には、自分で調べるように声掛けをする。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は40.9%で、市の平均を2.9ポイント下回っている。 ●正答率が半数を下回り、無回答率が13.6%で国語辞典の使い方を理解し、使うことに課題が見られる。	・国語辞典を扱う際は、言葉の意味だけでなく、例文にも着目し、自分でも調べた言葉を用いて作文を書く活動を行う。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は59.1%で、市の平均を13ポイント下回っている。 ●漢字のへんやつくりを組み合わせ、既習の漢字をつくることに課題が見られる。	・漢字に関するクイズやゲームなど、楽しんで児童主体で学習できるような題材を設け、係活動などで作成をし、授業の合間や帰りの会などで定期的に行うことで関心を高める。
話すこと・聞くこと	平均正答率は74.6%で、市の平均を6.6ポイント下回っている。 ●条件に合わせて、理由を挙げながら話す内容についてまとめることに課題が見られる。無解答率も高い。	・聞く力を鍛えるために、友達の話をよく聞き、自分の言葉に置き換えて伝える活動を授業の場面で適宜取り入れる。 ・授業の振り返りを書く際に、自分の考えを理由を入れて書けるように声掛けをする。
書くこと	平均正答率は16.7%で市の平均を29.5ポイント下回っている。 ●無回答率が47%であり、条件にあった内容を作文したり、事例を挙げて自分の考えを明確に表したりすることに課題が見られる。	・相手や目的を明確にして書く活動を充実し、「書いて伝えたい」という思いをもてるようにする。 ・自分の意見を理由を挙げて伝える方法とよさに気付かせ、習慣化を図る。
読むこと	平均正答率は49.4%で、市の平均を14.9ポイント下回っている。 ●文章を読みとり、文の意味を別の表現に置き換えたり、文を要約したりする問題に課題が見られる。	・文章を読む際に、読む目的や必然性をもたせ、文章の構成も意識しながら読めるようにする。 ・読書を日常的に行い、文章をたくさん読む経験をつけさせ、文を要約する学習も取り入れる。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	44.5	58.9	59.2
	図形	36.9	53.0	53.7
	測定	22.4	33.1	32.6
	データの活用	10.6	24.4	24.6
観点	知識・技能	39.2	54.3	54.7
	思考・判断・表現	27.7	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

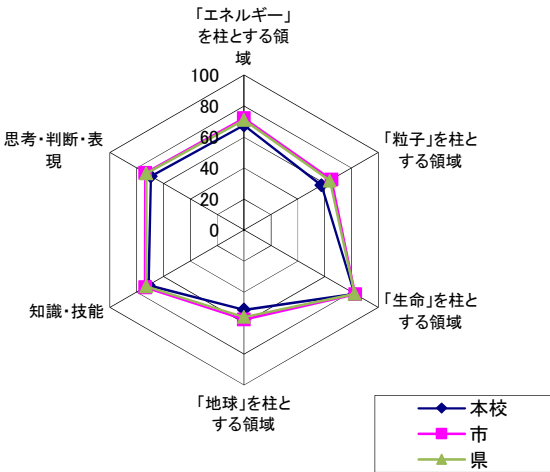
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は44.5%で、市の平均を14.4ポイント下回っている。 ○2桁÷1桁の計算問題では、市や県の正答率を2ポイント近く上回っている。計算問題を解く機会を継続して設けた成果と考えられる。 ●小数を数直線上で示したり、同分母の分数のたし算の計算の仕方を説明したりする問題の正答率が低く、課題が見られる。	・数直線のしくみや、目盛りの読み取り方について、整数のものを使って基本の復習を行い、その上で、小数の数直線を扱い、読み取ったり、書き加えたりする問題を解かせ、理解を確実なものにできるよう、繰り返し指導する。 ・同分母の分数のたし算について、単位分数について復習し、その何個分に当たるかを考えさせる問題を解かせ、理解を定着させることができるようにする。
図形	平均正答率は36.9%で、市の平均を16.1ポイント下回っている。 ○二等辺三角形になる図を選ぶ問題では、市の平均より低いものの、6割以上の正答率であった。 ●円の性質を利用して正三角形を作図する問題の正答率が低く、課題が見られる。	・円について、中心・半径・直径の意味について復習し、それをもとにコンパスを使って作図することで、基本の定着を図る。 ・球についての理解を確実なものにできるよう、立体模型を使って、中心・半径・直径について復習し、円筒にボールを入れて高さを求める活動を行い、体感的にとらえられるようにする。
測定	平均正答率は22.4%で、市の平均を10.7ポイント下回っている。 ●はかりの目盛りを読み取って重さを答えたり、重さが同じになる組み合わせを選んだりする問題の正答率が低く、無回答率も高いため、課題が見られる。	・はかりの実物を使って、目盛りの読み取り方を復習し、身近なものの重さを測る活動により、理解を深める。 ・身の回りの物の重さを単位にも着目して考える活動により、基本の定着を図る。
データの活用	平均正答率は10.6%で、市の平均を13.8ポイント下回っている。 ●棒グラフの読み取りの問題で、目盛りの付け方の異なるグラフを比較したときに棒の長さで比べられない理由を説明したり、落とし物の数が最も増えた種類を答えたりする問題の正答率が低く、課題が見られる。問題数が多く、最終の本問まで解き終わらなかった児童も多いと考えられる。	・棒グラフについて、目盛りの読み取り方、かき方、かく順序等について復習するとともに、同じデータを目盛りの付け方を変えてかかせることを通して、棒の長さが変わることに着目させ、理解を深める。 ・2本の棒を並べて数の変化を表した棒グラフを示し、数の増減について正しく読み取らせ、理解を促す。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	67.6	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	57.6	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	82.3	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	51.5	57.7	56.2
観点	知識・技能	71.2	73.8	72.8
	思考・判断・表現	69.3	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は67.6%で、市の平均を4.5ポイント下回っている。 ○磁石の極性について、概ね理解ができています。 ●風やゴムの働きでは、ゴムの長さや稼働距離の関係を実験結果から推測することに課題がある。 ●音の「ふるえ」について考察する問題では、キーワードが明記されていたにもかかわらず適切に使われていないことから、言葉の理解に課題がある。	・実験の方法やその結果を正しく記録し、考察やまとめをしていくという一連の流れを積み重ねていくようにする。 ・実験や観察した結果から分かったことを、正しい言葉を使ってまとめていけるよう、“キーワード”を使って適切にまとめ、友達の考えと比較したり説明し合ったりできるような場の設定を行う。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は57.6%で、市の平均を7.6ポイント下回っている。 ●ものの重さの性質について、言葉の意味が正しく理解されておらず、実験の結果は分かっていたものの、「体積」という用語を適切に使うことに課題がある。	・実験やその結果を理解するだけでなく、日頃からその単元に必要な“キーワード”を明示し、言語活動の充実を図っていく必要がある。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は82.3%で、市の平均を0.5ポイント下回っている。 ○植物の体のつくりと育ち方についての問題は、市の正答率を上回っている。 ○昆虫の体のつくりの違いをとらえ、昆虫のなかまではない理由について、記述で表現することができている。 ●観察記録カードの比較や、昆虫の育ち方のちがいについての正答率が市の平均より低く、資料や選択肢の文章の違いを見出すことに課題がある。	・植物の育ちや昆虫の育ち方を観察記録カードにまとめていくだけでなく、いくつかの植物や昆虫を比較し、同じところや違うところを見つけて、資料を読み取る力の定着を図る。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は51.5%で、市の平均を6.2ポイント下回っている。 ●方位磁針と太陽の位置の関係性と、太陽が東から南を通過して西に沈むことについての理解に課題が見られる。	・太陽の1日の動き方についての習熟を図るとともに、方位磁針などの理科観察道具を実際に使用する頻度を増やし、使い方の定着を図る。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。」と回答した児童の割合は(98.6%で)9割を超えており、また、学校教育目標である「根気よく」を学年目標や学級目標として掲げていることもあり、普段から意識して生活し、達成感を味わっている児童が多いと思われる。今後も学校目標を念頭に置いた活動ができるようにしていきたい。また「自分にはよいところがあると思う。」と回答した児童の割合は(83.6%で)8割を超えており、道徳教育や学級活動を通して友達のよさを伝え合う場面を設定し自尊感情の育成に努めてきた成果であると考えられる。これらのことから「だれに対しても思いやりの心をもってせっている。」と回答した児童の割合は(93.2%で)9割を超えており、達成感や自尊感情の高まりから周囲に優しく接することができていると考えられる。

今後も、学校と家庭が連携して児童の努力や成長を見守り自己有用感を伸ばす指導を継続して行っていく。

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている。」と回答した児童の割合は(100%で)10割に達しており、学校全体で特別活動の研究に取り組み、話し合い活動において聞きながら自分の考えをまとめていくという活動を取り入れている成果が表れている。

今後は、意見を聞くだけではなく一人一人が主体的に考え率先して発表する活動に繋がられるような指導を推進していく。

●「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられている。」と回答した児童の割合は(60.3%で)市の平均と比べて21.2ポイント下回っており、また「クラスは発言しやすい雰囲気である。」と回答した児童の割合は(63.0%で)市の平均と比べて20ポイント以上低く十分とは言えない状況である。

今後は、誰もが自信をもって発言できる発問から本質的な発問に繋げることで学習への期待感や必要間が高まり、学習への意欲の向上に繋がるように努めていくとともに、多様な考えを表出することに価値がある授業づくりを進める。

●平日におけるテレビやDVD、動画などを2時間以上視聴している児童の割合は(65.8%で)6割を超え、テレビゲームを2時間以上行う児童の割合は(48.4%で)約5割となっている。家庭における時間の活用の仕方について児童に考えさせるとともに、学校や学年便り及び学級懇談会等を通して保護者にも呼び掛け家庭と連携を図りながら、時間の有効的な活用が図れるようにする指導に努めていく。

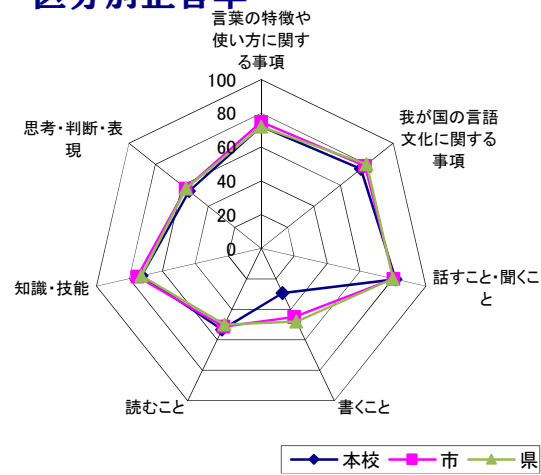
●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている。」と回答した児童の割合は(54.8%で)市の平均と比べて10ポイント以上低く情報活用能力が十分とは言えない状況である。これは、辞書を活用して漢字の読み方や言葉の意味を調べる活動や分からない国名や地名をインターネットを活用して調べる活動の肯定割合が市の平均と比べて低いことにも繋がっている。

今後は、授業において本やインターネットの特徴を活かした情報活用のよさを考えさせることで、主体的に学習に取り組む指導を推進していく。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	72.3	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	75.5	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	81.6	80.4	80.0
	書くこと	29.3	45.1	48.0
	読むこと	53.3	51.3	50.0
観点	知識・技能	72.6	75.2	72.8
	思考・判断・表現	54.4	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

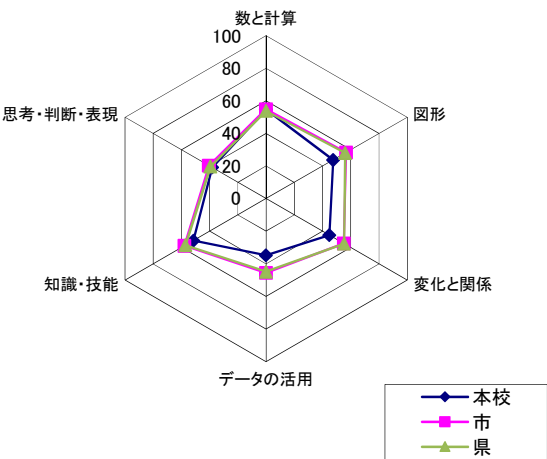
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、72.3%で、市の平均を2.5ポイント下回っている。 ○漢字の読みは、市と同程度の正答率だった。 ●漢字の書きの正答率については、どの問題も5ポイント以上低い結果となった。 ●文の中における修飾と被修飾の関係を捉えることに課題がみられる。	・漢字スキルの熟語をくり返し練習するだけでなく、習った漢字を使ったクイズを出すなど隙間時間を上手に活用して、楽しく学習に取り組めるようにする。 ・1人1台端末を使った個に応じた学習で、定着を図る。 ・様子を詳しく伝える語を文章に付け加える活動を意図的に行い、修飾語の理解を促す。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、75.5%で、市の平均を3.1ポイント下回っている。 ●慣用句の意味を理解して、自分の表現に用いることに課題がみられる。	・慣用句の意味を調べたり、慣用句を使った文章を作ったりする学習を行う。 ・スタンダードダイアリーのことわざや慣用句を活用し、授業で取り上げたり、家庭学習にも推奨したりする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、81.6%で、市の平均を1.2ポイント上回っている。 ○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることや、話し手が伝えたいことの中心を捉えることは、概ねできている。 ●司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に考えることや、話し合いの目的を確認し、意見の共通点や相違点に着目しながら、自分の考えをまとめることに課題がみられる。	・各教科のグループ活動などで司会の役割を全員が経験するようにして、話し合いの経過をみながら意見をまとめる活動を取り入れる。 ・各教科で自分や友達の意見の共通点や相違点に着目しながら話し合いを行う活動を行う。また、話し合いの目的に沿って自分の考えを文章にする活動を取り入れる。
書くこと	平均正答率は、29.3%で、市の平均を15.8ポイント下回っている。 ●指定された長さで書くことや、段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことに課題がみられる。 ●内容の中心を明確にし、事実を伝える文章や、事実と自分の考えを書くことに課題がみられる。 ●無回答率が、39.6%である。	・書きたくなる題材(面白作文・もしも作文など)を提示し、楽しんで書くとともに、作文を書く経験を積ませるようにする。 ・自分の意見を文章にする際に、2段落構成で簡潔に書く活動を行う。 ・事実と自分の考えを分けて書く活動をする際、文末表現などで書き分けができるよう、指導助言を続けたり、単元テストの見直しの機会に丁寧に指導したりする。
読むこと	平均正答率は、53.3%で、市の平均を2ポイント上回っている。 ○登場人物の気持ちの変化について叙述を基に具体的に読み取ることができている。 ○文章を読んで感じたことや、分かったことを具体的に想像して選択肢から選ぶことができている。 ●叙述を基に文章の内容を決められた文字数で抜き出すことに課題がみられる。	・文章の中からキーワードを見つけたり、指定されたキーワードを使って内容を分かりやすくまとめる活動を取り入れる。 ・読書活動を推奨し、様々なジャンルの文章を読む経験を更に積ませる。 ・目的をもって説明的文章を読む機会をもち、内容を適切に捉えられるようにする。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	54.7	54.9	53.7
	図形	47.5	56.6	56.1
	変化と関係	44.8	55.1	55.2
	データの活用	34.7	45.5	44.8
観点	知識・技能	51.6	57.8	57.2
	思考・判断・表現	38.3	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

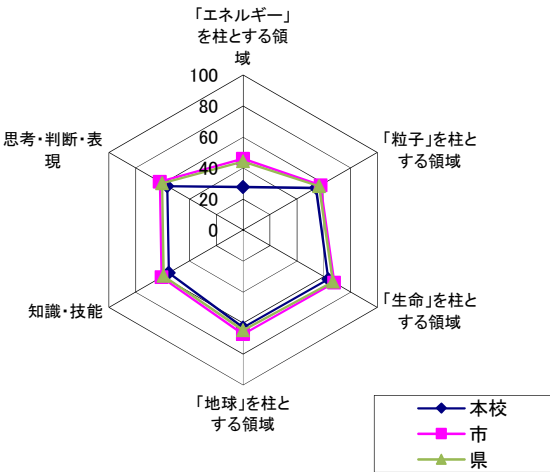
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は54.7%で、市の平均とほぼ同じである。 ○わり算や分数の計算については、市の平均を上回る結果が見られる。 ●大きな数の表し方では、億の単位や構成の理解、分数については数直線上の目盛りから分数を読み取り仮分数で表すことへの理解に課題が見られる。	・家庭学習や朝の学習の時間を利用して、計算ドリルや1人1台端末を活用しながら、分数や大きな数の学習を繰り返し行い、学力の定着を図る。 ・計算の工夫について説明できるように、工夫の良さについて復習するとともに、他者へ分かりやすく説明し表現する機会を意図的に設定する。 ・分数の大きさについては、1を何等分したかに着目させながら、分母と分子の意味を理解できるようにする。特に数直線を用いることで視覚的に大きさを確認できるように支援しながら復習を取り入れつつ指導を工夫する。
図形	平均正答率は47.5%で、市の平均を9.1ポイント下回っている。 ●三角定規の角度の理解や角度の大きさの求め方の理解に課題が見られる。 ●平行四辺形の作図をすることができるかどうかに課題が見られる。	・角度を調べる際には、三角定規を活用する場面を設け分度器以外のものでも角度を図る作業を取り入れる等、指導の工夫を行う。 ・授業において三角定規の角度の確認を都度行い、直角三角形や二等辺三角形への理解を深める。
変化と関係	平均正答率は44.8%で、市の平均を10.3ポイント下回っている。 ●表をたてに見ることで、伴って変わる2つの数量の関係を読み取る問題や、割合を用いて比べる場面について分かることを説明することにおいて、課題が見られる。	・表に分かったことを書き込む習慣をつけることで、変化について比較できるようにさせる。 ・問題場面において、もとにする数や比べられる数を色分けしするなどして、比較する際のヒントとなるように支援を行う。
データの活用	平均正答率は34.7%で、市の平均を10.8ポイント下回っている。 ●グラフから正しく変化の様子を読み取ることについては、市の平均を上回っているが、正答率は11.3%で課題が見られる。 ●二次元の表の意味の理解や傾向の読み取り方に関しては、課題が見られる。 ※問題数が多く最終の本問まで解き終わらなかった児童も多いと考えられる。	・グラフから読み取ったことを説明する問題では、無回答もあることから、課題に対して自分の考えを書いたり、根拠や具体物を示しながら考えを話したりする活動を多く取り入れる。 ・グラフの読み取りに関しては、他教科との関連も図り、比較する観点や着目するポイントについて指示することで習熟を図る。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	27.7	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	54.3	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	63.4	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	62.9	67.2	64.6
観点	知識・技能	55.4	60.8	59.2
	思考・判断・表現	56.5	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は27.7%で、市の平均を18.3ポイント下回っている。 ○並列つなぎや直列つなぎの回路を比べ、流れる電流の大きさについての理解ができており、平均正答率46.4%よりやや低かった。 ●乾電池のつなぎ方とその名称、簡易電流計の針のふれ方からわかることについての理解に課題が見られる。	・「電流は電池のプラスからマイナスに流れる」「電流の流れる向きに電流計の針が振れる」ということを関連付けて理解を促す。 ・直列つなぎと並列つなぎそれぞれの繋ぎ方と特徴について、イラストや動画などで確認する。 ・実験は一人一人が回路をつないで行うことで、実感を伴った理解を促す。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は54.3%で、市の平均を3.4ポイント下回っている。 ○空気には押し縮められる性質があることを知り、ポンプを押すことで手ごたえが大きくなることを概ね理解している。 ●金属と空気のあたたまり方と体積の関係についての理解が低く、思考・判断・表現に課題が見られる。	・もののあたたまり方と体積変化のところでは、既習の知識を活かして問題解決をするような問題を出していく。特に今回の学習状況調査の問題になっているような「ジャムの蓋を空けるためにはどうすればいいだろう?」「へこんだピンポン玉を温めると元に戻るのなぜだろう?」といった、生活に即した問題を出題していく。 ・実験前後の様子などに着目し、自分の考えをまとめたり、イメージ図を描いたりする活動を通して、実態的に比較する場面を増やす。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は63.4%で、市の平均を4.4ポイント下回っている。 ○植物の成長や季節と植物の様子についての理解は概ねできている。 ●骨と関節についての理解や、筋肉のはたらきについての考え方については課題が見られる	・1年間の生き物の様子について、観察活動が充実するよう、きめ細やかな指導助言を継続して行う。 ・自分自身の身体の仕組みに目を向けられるよう、骨と関節・骨と筋肉など、体のつくりの仕組みのつながりを大切にしながら指導に当たる。そして、それらの仕組みから人の体のつくりと運動とのかかわりについて捉えられるように指導助言をする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は62.9%で、市の平均を4.3ポイント下回っている。 ○水の流れについて身近な出来事と関連付けて考えることに関しては、概ねできている。 ●空気中の水蒸気が冷やされると液体の水になることについての理解に、課題が見られる。	・月や星を観察する機会を多くもつようにし、天体の美しさを感じとる体験活動の充実を図る。 ・身近な天気の様子や自然界の水の変化が起こる様子について、実験観察を通して、興味関心をもって追究する活動の充実を図る。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の復習をしている。」と回答した児童の割合は(80.7%)で8割を超えている。家庭学習において自主学習等自ら学習計画を決め、授業で習ったことや今後の予定に向けて、自ら学習に取り組む習慣が身に付いていると考えられる。

○「家で自分で計画を立てて勉強している。」と回答した児童の割合は(93%)で9割を超えており、市の平均を18.7ポイント上回った。また、「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」と回答した児童の割合は(70.2%)で、市の平均を10.1ポイント上回った。課題の見通しをもち、自主的・自主的に家庭学習に取り組む態度が育っていることが分かる。今後も、家庭と連携しながら、家庭学習の習慣を定着させ、学力向上につなげていきたい。

○「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」と回答した児童の割合は(100%)で、市の平均と比べて3ポイント上回り、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」と回答した割合(75.5%)は、市の平均を4.3ポイント上回る。今後もキャリア教育との関連を図りつつ自分の目標を立てさせたり振り返りを実施したりし、充実した学校生活を送っていただけるように支援する。

○「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている。」と回答した児童の割合(98.2%)は、市の平均を4.6ポイント上回っている。また、「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」と回答した児童の割合(94.7%)は、市の平均と比べて3.1ポイント上回る。今後も見通しをもって粘り強く課題解決に当たれるよう授業を展開していくとともに、授業の最後に、学習したことを振り返る活動をしっかり行い、1時間の中で、分かったことや気付いたことを意識させ、授業内容について振り返ることで、その単元の学習の理解をより確実なものにさせていきたい。

●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」と回答した児童の割合(73.7%)は、市の平均を3.7ポイント下回り、また、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」と回答した児童の割合(71.9%)は、市の平均を6.8ポイント下回る。今後も授業の中で話し合い活動の充実を図るとともに、1人1台端末等を活用し、自分の意見を発表できた実感できる場を設定していく。

●「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る。」と回答した児童の割合(47.4%)は、市の平均よりも3.2ポイント下回る。また、「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある。」と回答した割合(80.7%)は、市の平均を2.7ポイント下回る。どの教科も簡単な問題から取り組み、「できた」という成功体験を多く積むことで、児童の向上心や意欲を高める指導に努めていきたい。また、「宇都宮モデル」による授業「はつきり！じっくり！すっきり！」を意識し、授業の導入や問題提示の仕方を工夫するなど、授業づくりに努めていきたい。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」と回答した割合(64.9%)は、市の平均を1.8ポイント下回る。また、「学校での役わりや係の仕事にせきにんをもって取り組んでいる。」と回答した割合(89.5%)は、市の平均を4.8ポイント下回る。今後も学級での係活動・当番活動を自分たちのアイデアを生かし、計画的に行うことで、児童に自己有用感を味わわせていく。また、高学年として、委員会活動など学校全体に関わる活動にメンバーと協力して、意欲的に取り組めるよう声掛けを行っていくことで、さらに自己有用感を高めていきたい。

●「地いきや社会で起こっている問題やできごとに関心がある。」の回答した児童の割合(61.4%)は、市の平均と比べて14.3ポイント下回る。総合的な学習の時間や社会科などの時間で、地域の教育資源や社会問題を活用し、地域や社会で起こっている問題を自分事として捉え、児童の関心を高めていきたい。

宇都宮市立緑が丘小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎基本を定着させるための取組	・「宇都宮モデル」を活用し、授業の中で「めあて・まとめ・ふりかえり」を行い、授業の焦点化を図りながら、（はつきり！じっくり！すっきり！）における指導を行っている。	・授業で示された学習の目標とまとめをノートに書いている児童は、4年生が約8割で5年生が約9割である。5年生は昨年4年生だったときと比べて、約9ポイント増加している。
・知識・技能を活用する力を育成するための取組	・他者との交流や自分自身の問い直し、目的に応じた1人1台端末の活用など、児童が多様な方法を選択し、組み合わせながら、粘り強く主体的に課題解決に取り組むことができるような授業改善を行っている。	・分からないことや興味をもったことなどを、1人1台端末や書籍等を活用して調べている児童は、4.5年生共に約6割である。 ・難しい問題に出会うと、よりやる気があると回答した児童は、4・5年生ともに約4割で、できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている児童は、4年生で約7割、5年生で約8割である。
・学ぶ意欲をもち続けるための取組	・特別活動の授業研究の充実を通して、安心して自分の考えを表出し、対話的に学べる学習集団づくりを行っている。	・グループなどでの話し合いに自分から進んで参加し、友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると感じている児童は、4・5年生ともに約7割であり、5年生の児童が昨年度4年生だったときと比べて、約4ポイント増加している。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・教科に関する調査から、国語の文章を書くことや、算数の後半の問題において、無回答が多かった。	問題の意味や課題の目的を把握して意欲的にねばり強く取り組む活動の充実	目的を明確にし、書く場面や活用場面を意図した授業展開を行う。 学年末に、パワーアップシートの「書くこと」に関する問題に取り組ませ、再確認する。